

# はじめに

本書は、高機能の発達障害のある方に、支援プログラムの参加の意義を伝える一つの方法について考察したことをまとめた報告書です。

当法人では、新たな取り組みをモデル的に実践し、各所での提案や普及に努める部署として2001年に企画事業部が設置されました。企画事業部には、ケアシステム推進課、ケアサービス推進課、文化芸術推進課という3つの課があり、それぞれ福祉の新たな可能性を探求しています。ケアサービス推進課では、2005年から知的障害を伴わない自閉症スペクトラムの方々（本文では「高機能発達障害者」とする）が、自立して暮らすことができるようになるための支援方法を考え、実践してきました。昨年度までは、高機能発達障害者のグループホーム「ホームかなざわ」を運営し、支援をとおして検証したことを報告してきました。

高機能発達障害者への支援において、個別性と専門性が求められることは周知の事実です。個別性とは彼らの様々なニーズや個々の障害特性に対してどのように支援するのかを指し、また、専門性とは多角的な視野で直接支援や環境設定をしていくことを指しています。障害福祉サービス事業所（以下、事業所）においては、これらのことを念頭に置いて支援をしていますが、プログラムに参加できないという方も少なくない現状があります。そこには、目に見えないこと、経験していないことを想像しにくい、全体を見通すことが苦手という想像力の特性が関与している可能性が、当課のこれまでの実践をとおして見えてきました。そこで今年度は「事業所に通うことに何の意味があるのか。支援プログラムは何のために参加するのか。参加したらどうなるのか。」これらのような見通しへの疑問に対して、目的達成のための計画づくりからその計画の進捗管理ができるロジック・モデルを活用し、プログラム参加の意義を伝える方法を検討しました。

検討にあたり、高機能発達障害者に特化した支援を行っているびわ湖ワークス・ジョブカレ（以下、ジョブカレ）の協力のもと、ジョブカレの支援プログラムのロジック・モデルを作成し、支援プログラムの検証を行いました。また、支援プログラムを論理的に整理できる方法についても報告しています。

本書を読み進めていくと、日々の支援プログラムがまた違うかたちで見えるのではないかと思います。ぜひ、ご一読ください。

2019年3月

# C O N T E N T S

---

## 第1章 高機能発達障害者への支援プログラムについて

第1節 高機能発達障害とは	4
第2節 高機能発達障害者への支援現場の実際（ジョブカレ事業を通して）	
第1項 ジョブカレ事業	6
第2項 ジョブカレの支援プログラムについて	6
第3項 ジョブカレのスキル評価シートについて	9
第3節 研究背景と目的	11

## 第2章 支援プログラムのロジック・モデル作成

第1節 ロジック・モデルとは	12
第2節 ロジック・モデル作成の手順	16
第3節 ジョブカレ支援プログラムのロジック・モデル作成	
第1項 プログラムの理論抽出	18
第2項 ロジック・モデル（完成版）	23
第4節 支援現場でのアウトプットとアウトカム	33

## 第3章 ロジック・モデルの活用

第1節 福祉サービスの質を考えるロジック・モデル	34
第2節 ロジック・モデルと個別支援計画	36
第3節 ロジック・モデル（個別版）による自己評価と他者評価	39

## 第4章 ロジック・モデルから見えてきたもの

第1節 2人のロジック・モデル（個別版）の考察	41
第1項 Aさん（ジョブカレ利用期間内に一般就労された方）	42
第2項 Bさん（支援プログラムに参加しにくい方）	47
第3項 AさんとBさんのロジック・モデル（個別版）の比較・考察	51
第2節 支援現場におけるロジック・モデル活用の可能性	55

## 第5章 プログラム評価の理論で考える支援プログラム

第1節 プログラム評価の理論で支援プログラムを見る	56
第2節 論理的な整理ができるプログラム確認方法	
第1項 プログラムの確認方法（作成手順）	57
第2項 支援プログラムを整理する14項目	59
第3節 具体例から考えるプログラム確認（就労支援）	61

まとめ プログラム作成とその評価としてのロジック・モデル活用方法	66
----------------------------------	----